

上下分離について

- ・乗車人員の減少等による赤字基調が続き、従前の体制では存続が困難
 - ・路面電車を将来世代へ引き継ぐため、持続可能な経営形態を検討
- 令和2年(2020年)4月:上下分離の導入**

【目的・効果】

- ①経営基盤の強化
- ②安全管理体制の維持・継続
- ③新たな事業展開による収益向上、利用者サービスの向上
- ④路面電車のまちづくりへの活用、公共交通ネットワークの維持

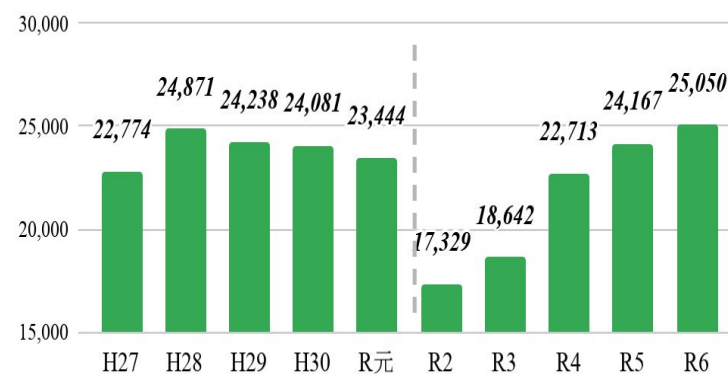
①経営基盤の強化

＜上下分離導入時に想定されたメリット＞

- ・公社が運送事業に特化した経営に専念でき、経営効率化や新たな取組が可能となる
- ・局が経営を継続した場合と比較して、経費や人件費の縮減により収益性が高まり、累積損益が好転するなど経営の安定・強化が図られる

＜効果・実績＞

【乗車人員】



【運送事業者の収支】

(百万円・税抜)

		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
収入	運賃収入	955	1,035	1,294	1,403	1,511
	その他収入	415	419	460	492	504
	計	1,370	1,454	1,754	1,895	2,015
支出	人件費・経費	1,028	1,041	1,126	1,157	1,170
	施設使用料	604	409	671	735	774
	計	1,632	1,450	1,797	1,892	1,944
経常収支		▲262	4	▲43	3	71

②安全管理体制の維持・継続

＜上下分離導入時に想定されたメリット＞

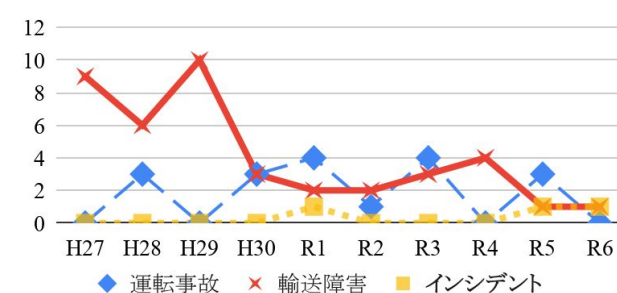
- ・安全運行の要となる運行管理員となる人材を長期的に確保できるようになる
- ・維持管理に係る技術を習得した職員がその専門業務を継続して担当することが可能となり、将来にわたり安全運行のノウハウや技術・技能の継承を図ることができる

＜効果・実績＞

【運送事業の職員体制づくり】

	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
運行管理員	7	7	10	10	10
ーうち、局職員(派遣)	5	2	6	4	3
ーうち、プロパー職員	2	5	4	6	7
技術職員	15	15	15	16	15
ーうち、局職員(派遣)	11	11	11	9	7
ーうち、公社職員	4	4	4	7	8

【事故・インシデント発生状況】



全体まとめ

＜これまでの成果＞

上下分離導入後、新たな事業展開や経営効率化などの効果を発揮し、サービス向上や環境整備を図りながら、安全運行を維持

＜現状の課題＞

➤経営をとりまく環境の変化への対応

物価や人件費の高騰等が継続しており、収支状況が厳しさを増す中で、運転手等の人材確保のための処遇改善や、車両・施設の老朽化に対応する必要がある

＜今後の方向性＞

➤健全経営の維持

- ・乗客誘致や広告料収入の増、経費の一層の節減に向けた取組を強化
- ・必要な安全投資や利便性向上、各種費用の増嵩等に対応可能な安定的な財源の確保

➤安定的にサービスを提供するための職員体制の維持

- ・人材の確保・定着に向けた、処遇改善等の実施
- ・専門人材の育成

③新たな事業展開による収益向上、利用者サービスの向上

＜上下分離導入時に想定されたメリット＞

- ・公社の柔軟な発想による事業展開が可能となり、様々な利用者サービスの取組・向上が期待できる

＜効果・実績＞

【広告販売業務】



▲停留場ネーミングライツ

【パートナー契約】



▲パートナー契約締結によるラッピング車両

【企画電車】



▲ポケモンラッピング電車



▲花電車

【乗客誘致策】



▲雪ミク電車記念乗車券



▲No Maps Sports2024

【その他】

モバイル版札幌市電1日乗車券 ➤



▲鉄カード(第2弾 雪形)

④路面電車のまちづくりへの活用、公共交通ネットワークの維持

＜上下分離導入時に想定されたメリット＞

- ・施設・車両の保有整備を局が引き続き担っていくことにより、国の補助制度を活用しながら、税負担による低床車両の導入やバリアフリー対応等の新たな設備投資の継続が可能となる

＜効果・実績＞

【低床車両の導入】

- ・ポラリス:3両
- ・シリウス:10両
- ・ポラリスII:2両
- ※R8~R10年度3両導入予定



【停留場の改良】

- 街路拡幅工事に合わせたバリアフリー対応(西4丁目、すすきの等7停留場実施)

【制振軌道化】

- 快適性向上のため、振動や騒音を抑えたレールへの改良(85.9%完了)